

旧丸田医院文書目録と目録作成について

1 本文書は東京都大田区在住、丸田俊彦氏外から寄贈された旧丸田医院（現「ふれあい館しらふじ」）関係の史料である。

2 旧丸田医院は上高井郡高甫村大字八町で「高甫医院」を開業していた医師丸田喜助が、明治42年頃須坂町32番地に転居、開業した個人医院である。喜助の4男倭文雄がその医業を継ぎ、明治期から昭和にかけて、父子2代にわたり須坂市域の医療活動に従事した。

旧丸田家文書は、明治20年～昭和16年頃までの医院経営に関わる書類と医学関係の書籍・雑誌、そして写真類が大半を占める。丸田家は喜助、倭文雄の外に、喜助の弟茂助が軍医として佐世保海軍病院などに勤務、また喜助の3男公雄は、信州大学医学部教授（外科）となった。その関係写真類も若干含んでいる。

3 旧丸田家文書の形態・性格を考慮し、以下のように分類・整理した。

記号	分類項目	史料番号	史料点数
A	医院経営	171	91
B	一般書籍・雑誌	180	184
C	医学関係書籍・雑誌	57	57
D	日記・卒業証書類・写真・絵葉書	48	232
E	写真 追加分	17	17
合 計		473	581

「A 医院経営」にかかわる史資料は、その大半が金銭出納帳・患者名簿・投薬記録などの帳簿類である。須坂町で開業以後の史料の外に、高甫村時代の医院経営に関するものを含んでいる。また山丸製糸場・西神林製糸場で働く工女たちへの投薬記録をはじめ、主要な製糸工場別の投薬記録が残っている。なお寄贈者と須坂市文書館との協議により総計93番号の史資料については、欠番とした。

「B 一般書籍・雑誌」は明治期に出版された漢籍類、小学校の教科書類、経済雑誌・家庭雑誌が主なものである。「日清戦争実記」が全50冊揃いである。

「C 医学関係書籍・雑誌」には、丸田喜助自筆写本「山本氏解剖学 内臓編」の外、江戸末期の写本と推定される「薬徴」、「口中秘方」がある。「薬

徴」は中島元洞が京都の川越正淑大亮の「傷寒藥品体用 卷之上」を筆写したもの、「口中秘方」は幸高村の音吉から中島孫七へ譲られた医書をさらに丸田家が引き継いだものである。いずれも貴重な地域医療史料である。

「D 日記・卒業証書類・写真・絵葉書」のうち、日記は明治26年～大正14年までのものである。

また「D」、「E」の写真類は、総計 249 点を数えるが、残念ながら年次不明のものが多く、撮影されている人物に関しても不明なものが多い。明治期から昭和期にかけて、須坂市域に中沢写真館、小林写真館、青木写真館、勝山写真館、月原写真館、木内写真館、宮沢写真館などが営業していたことが判明する。なお4点の写真については寄贈者の意向により欠番とした。

- 4 これら現存する史料を「旧丸田医院文書目録」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「045」（45番目）に位置づけ、史料番号は「045-A-1」から開始して、整理ラベルを貼付した。

史料点数は 581 点を数える。

- 5 史料目録の作成に当たっては史料活用の便を考慮して、次のようにした。

- (1) 史料名は、原則として史料中に記載された表題を記載したが、小片に書きつけられたメモ類及び無表題史料には、下記のようにその内容を略記し、（ ）内に内容説明を掲げた。

人物写真（女学校生徒 50 人・男性 4 人）

箱荷送り状(本日から十一日頃には荷が着く予定)

- (2) 小片のメモ・サイズ違いの写真類は紛失の可能性があるので、封筒入りにし保管した。

- (3) 史料形態については、次のように略記した。

紙（一紙）、冊（冊子）、綴（ジョイントを含む）など

- 6 本史料目録が須坂市民をはじめ多くの地域史研究者によって活用されることを期待する。そして、すでに発刊されている『下八町史』・『須坂市誌』第五卷（歴史編Ⅲ）を超えて、さらに地域の歴史に輝きを添えられることを願ってやまない。

- 7 本史料目録は、旧丸田医院のご理解とご協力を得て、須坂市文書館の専門員 井上光由・大塚尚三・田子修一が作成した。

2019年6月12日

須坂市文書館

旧丸田医院文書目録（追加分）と目録作成について

- 1 本文書は東京都大田区在住、丸田俊彦氏外から寄贈された旧丸田医院（現「ふれあい館しらふじ」）関係の史料「旧丸田医院文書」（2019年6月公開）の目録上梓後に追加・整理した史料である。文書名は「旧丸田医院文書（追加分）」とした
- 2 旧丸田医院は上高井郡高甫村大字八町で「高甫医院」を開業していた医師丸田喜助が、明治42年頃須坂町32番地に転居、開業した個人医院である。喜助の4男倭文雄がその医業を継ぎ、明治期から昭和にかけて、父子2代にわたり須坂市域の医療活動に従事した（045「旧丸田医院文書」解題より）。
- 3 「旧丸田医院文書」では、明治20年～昭和16年頃までの医院経営に関わる書類など473件（史料件数581点、史料の内容によりA～Eに大分類している）を目録化した。本文書「旧丸田医院文書（追加分）」は同文書の続編とし、史料番号頭に記号Fを置き、○医学書・医薬品解説書、○一般書籍・雑誌外、○医院関係文書、○諸事控・家政記録・写真、○雑件に分け、項目別に時系列で史料番号を付した。年次不詳のものは内容によって年代を推定し項目の最後尾に置いた。史料番号は史料番号99まで、総史料点数は102点である。史料の内容は「旧丸田医院文書」と同様のものが大半であり、重複するため詳しくは触れないが、本文書では医院関係では医学生であった丸田毅氏が筆記した詳細な医学講演記録、須坂製糸社員の診察記録、また家政に関わる記録として丸田家子女が通学した須坂高等女学校の卒業アルバム等の写真史料や慰問した出征兵からの軍事郵便などが興味を引く史料であろう。
- 4 これらの史料を「旧丸田医院文書目録（追加分）」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「045」（45番目）の「（追加分）」に位置付け、史料番号は「045 - F - 1」から開始して整理番号ラベルを貼付した。史料目録の作成に当たっては史料活用を考慮して、次のようにした。
 - (1) 史料名は、原則として史料中に記載された表題を記載したが、それ以外は内容等から適宜史料名を付した。
 - (2) 史料形態については、次のように略記した。
冊（冊物類） 横半帳 封（封書類） 紙（チラシ図面等一紙）など
- 5 本文書目録は、須坂市文書館学芸員（認証アーキビスト）の松島耕二が作

成した。

2022年6月20日

須坂市文書館